

令和 4 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
農産・畜産部門

環境と共生する伝統農法と高度な茶業経営を両立

- 氏名又は名称 農事組合法人 山東茶業組合（代表 伊藤 智章）
- 所在地 静岡県掛川市
- 出品財 産物（深蒸し煎茶）
- 受賞理由

・地域の概要

掛川市は、静岡県の中西部に位置しており、静岡県内でも有数の茶産地である。特に深蒸し煎茶の産地として知られており、全国茶品評会深蒸し煎茶の部において、全国最多となる24回の産地賞を受賞している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

農事組合法人山東茶業組合は、昭和 40 年に前身の「山東共同製茶工場」の設立に始まり、現在は組合員数 15 人、管理する茶園面積は 60.1ha となっている。設立当初から組合員全員が環境と共生する「茶草場農法」に取り組むとともに、技術力の相互研鑽や基盤整備の実施、各種品評会への挑戦等を通じて高品質な茶の生産能力を高めている。これにより、数多くの品評会で上位入賞するなど高く評価され、県内平均を大幅に上回る価格での取引と、県平均の約 2 倍の単収を達成している。

・受賞者の特色

(1) 伝統的農法である「茶草場農法」の実践

「茶草場農法」は静岡県に特徴的に見られ、茶園の周囲に存在する「茶草場」に生えたススキやササを秋から冬にかけて刈り取り、乾燥、裁断して茶園の畝間に敷く農法である。土壌中への炭素貯留により温室効果ガスの排出削減に資するとともに、茶草場が多く動植物の生息地として生物多様性の維持に貢献していることから、環境配慮と持続可能な農業の実践として世界からも注目され、世界農業遺産に登録されている。山東茶業組合では全組合員が同農法に取り組み、先進的な機械化茶業生産を行いながら環境と共生した伝統農法を継承している。

(2) 定年制導入による技術継承と、技術向上に向けた取組

共同組織には珍しい 60 歳定年制を導入し、担い手の育成及び後継者の確保を目的に積極的な技術継承に取り組んでいる。また、組合として品評会への挑戦を重点活動に位置付け、肥料設計の見直しや茶園巡回調査、更に近年はスマート農業に取り組む、より良い栽培体系の研究と、品質の高位均一化に取り組んでいる。

(3) 女性の活躍

山東茶業組合には婦人部があり、組合員の配偶者 14 名で構成されている。茶の摘採期には組合員の作業をサポートするとともに、イベントでの販売活動や食品加工等の活動、小売商品のパッケージ発案などにおいては主体として活躍している。

・普及性と今後の発展方向

設立時から茶草場農法に取り組むとともに、品評会への挑戦を通じて茶の生産技術を磨くことで、地域全体の技術レベルを引き上げ、掛川市を深蒸し煎茶の名産地に押し上げてきた。今後、小売販売の拡大や有機栽培の導入と輸出に取り組むことで、世界に向けて掛川茶の情報発信を担っていくことが期待される。